

「県立高校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」県民説明会 八千代会場 2回目

- 1 日 時：令和7年7月17日（木曜日）午後6時30分から午後8時まで
- 2 場 所：勝田台文化センター ホール
- 3 内 容：「県立高校改革推進プラン・第2次実施プログラム（案）」の説明と質疑
- 4 参加者：27名
- 5 主 催：千葉県教育委員会

意見聴取の概要

Q 地域住民や統合校の先生方からヒアリングした内容を教えていただきたい。

A 令和5年度に習志野・八千代・船橋地区で地域協議会を実施しました。その中で、「学校としては一定の規模が必要である。」「習志野・八千代・船橋地区の魅力的な資源を活かした学びを作ってほしい。」「小規模な学校も学びのセーフティネットとしての役割があり必要である。」「多様な学びへのニーズに対応する教育を展開してほしい。」などの声がありました。

令和6年度には八千代西高校において地域フォーラムを2回行いました。その中では、「統廃合を行っても、八千代西高校で行っている学び直しや少人数での教育を継続してほしい。」「八千代西高校には支援が必要な多様な生徒が在籍しており、丁寧な指導を県教育委員会として担保してほしい。」などの意見がありました。

これらの意見を丁寧に分析して、今回のプログラム案を策定しました。

Q 八千代東高校の改修時期・内容を教えていただきたい。

A 八千代東高校は長寿命化計画第二期の対象校です。令和5年度から基本設計に着手しており、今後体育館・管理特別棟・普通教室棟・格技館の順で改修していく予定です。

Q 受検生への周知をどのように行っていくのか。

A プログラムを正式に策定した後、学校ごとの説明会や県教育委員会のホームページなど、様々な媒体を活用して、中学生の皆様にも周知を図っていきたくと考えています。特に令和10年度の統合時に入学する中学生には、どのような学校になるのか、丁寧に時間をかけて説明していきたくと考えています。

Q 八千代市内は高校も必要であると考えますが、子どもの増加に伴い中学校が足りない地区もある。県教委はどのように考えているか。

A 八千代市の一部の地域で小学生・中学生が増加していることは、八千代市教育委員会から情報提供いただいています。高校については令和4年3月に公表した県立高校改革推進プランの中で、適正規模を都市部においては6～8学級としています。これに満たない学校で、近隣に同じタイプの学校が近接している場合には統合により、新しいタイプの学校への再編を検討するとしています。

八千代西高校は生徒募集に苦慮しており、4学級募集の学校です。現在も素晴らしい教育活動を展開してはいますが、我々としては活力ある教育活動の維持・展開のためには、ある程度の学校規模が必要だと考え、統合の案を公表しました。

Q 定員未充足の原因をどう考えるか。

A 一部の地域では小学生・中学生の増加傾向が見られますが、2学区全体また八千代市全体で捉えると、中学校卒業者数は減少しています。中学校卒業者数が減少傾向にあることが大きな原因だと考えています。

Q 適正規模についてどう考えているか。

A 国において特に基準等があるわけではなく、千葉県教育委員会による基準です。学習活動・部活動・学校行事において生徒たちが切磋琢磨できる環境に必要な学級数を、県教育委員会が策定した数値です。

Q 八千代東高校と八千代西高校には学力差があると思うがどうか。

A 2校の間にはある程度の学力差があると思いますが、統合に当たっては問題ないと判断しました。高校は学力だけでなく、社会人になるための素養を磨き、職業観を育てる場所でもあります。異なる学校が統合されることで学校生活に深みや幅が生まれると考えています。

Q 統合して生徒数が増えると雨の日などの車の送迎によって、近隣の住民に迷惑がかかるのではないかな。

A 県立高校の多くの学校で同じ問題が見受けられます。安心・安全な通学路を保障するために、保護者の皆様にも御協力いただけるよう働きかけていきます。学校の生徒だけでなく、近隣の住民の皆さんにも安心して通行いただけるようにしていきます。

Q 八千代西高校の先生は、統合したときにどうなるのか。

A 県立高校の教員は定期的に人事異動があります。色々なタイプの学校を経験することが、教員にとって大きな財産であり、教員の資質向上や成長につながると考えます。確かに統合により、複数の教員が異動することになりますが、また新しいタイプの教員が配置されます。そのようにして教員が定期的に異動することも県立高校の魅力の1つだと考えています。

Q 昨年の八千代西高校で開催された地域フォーラムにおける校長先生や生徒の意見をなぜ話さないのか。

A 地域フォーラムで出た意見は全て千葉県教育委員会のホームページで公表しています。先ほどは時間の関係で全ての意見を紹介できなかったもので、代表的な意見のみ紹介させていただきました。確かに「今の八千代西高校のままで頑張っていきたい。」「統合の対象にしてほしくない。」などの声もありました。一方で「一定の規模の生徒集団が必要である。」などの意見もありました。

Q 適正規模の科学的根拠はなにか。

A 特に国で基準等決まっていることではありません。小規模校には小規模校の魅力があり、少人数学習等を展開し、生き生きと活動していることは承知していますが、学校行事・部活動など活力ある教育活動を維持・展開するには適正規模が必要だと考えております。

Q 過去の統廃合について、子どもたちの声をきいているのか。

A 県教育委員会では統合や新しい学科・コースを設置した学校において、最初の卒業生が出る年に生徒・保護者・教員にアンケートを行っています。アンケートについてはプラン評価という名前で千葉県教育委員会のホームページに掲載しておりますので御覧ください。

Q 25人学級についてはどう考えるか。

A 平成11年2月の定例県議会で25人学級推進についての議決があったことは承知しております。ただ、こちらは小・中学校を中心として少人数学級を推進するという内容でした。高校については国の「公立高校の適正配置及び教職員定数の標準に関する法律」で1学級は40人を標準とするこ

とが規定されていますので、これに基づき40人学級を展開しています。

Q 本県は財政力指数が上位5番目であり、県独自の予算で少人数学級を実現できると考えるがどうか。

A 実際に25人学級を展開すると相当数の教員の数が必要となります。県教育委員会としては、財源は確保できていません。

Q 統合後、八千代東高校にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを重点的に配置するとのことだが、他の学校や八千代西高校にも配置できないのか。

A スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーは生徒にとって欠かせない存在だと認識しています。八千代西高校ではウェルビーイング・ハイスクール設置モデル事業の一環として、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを重点的に配置し、医療的・福祉的側面から生徒をサポートしていきます。八千代西高校をモデル校とし、今後もそのような取組を拡充していきたいと考えています。

Q 公立と私立で学級減の割合が公立に偏っていると考えがどうか。

A 公立と私立の募集定員については、中学校の卒業者数の増減等をベースとし、様々な要因を考慮して策定しています。詳細はホームページで公表していますので御覧ください。なお、ここ数年の中学校卒業者の傾向として全日制への進学率が減少し、通信制への進学率が増加しており、そのような要因も考慮しています。

また私学についても大規模な学校があることは承知していますが、県教育委員会の管轄外となります。しかし、公立・私立に関わらず、千葉県の子どもたちのために、よい学びの場を保障することが私たちの役目だと思っています。募集定員の策定だけでなく、どのようにしたら子どもたちのために魅力的な学びの場を担保できるのか、ということも公立と私立の協議会で話し合っております。

Q プログラム案が決まってから子どもたちに伝えるのではなく、子どもたちの意見を聞き取ってから決めるべきだと考えがどうか。

A 昨年度、八千代西高校において地域フォーラムを行った時点では、統合案などは示さず、八千代西高校の学びを活性化するためにどんなことが必要かという意見を職員・生徒の皆さんから伺いました。現在はパブリックコメントにおいて、県民の皆さんから幅広く意見を募集しているところです。ぜひ中学校・高校生の皆さんからも御意見を頂きたいと考えております。実際に船橋北高校の卒業生・在校生等からたくさんの御意見を頂いております。

意見

○八千代東と八千代西高校については卒業後の進路がだいぶ異なる。また、八千代西高校のような学校を必要とする生徒がいることも踏まえて、統合については慎重に検討していただきたい。